

令和5年度ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査 結果概要

県政に関し広く県民の声を聴き、県政運営上の参考とするため希望郷いわてモニター（県民）に定期的にアンケート調査を行っているものであり、ひとにやさしいまちづくりについては、平成19年から継続してアンケート調査を実施しているところ。

1 アンケートの趣旨

今後、県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施した。

2 調査実施期間

令和5年8月21日(月) ～ 同年9月4日(月)

3 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

4 調査対象

令和4、5年度希望郷いわてモニター 197名

5 回答者数

149名

6 回答率

75.6%

7 結果概要

(1) ひとにやさしいまちづくり条例・同推進指針の周知度

ひとにやさしいまちづくり条例及び同推進指針に係る認知度（知っていて内容も理解+何となく理解）は36.9%であり、令和4年度と比較して6.7ポイント増加した。

(2) 県の施策の認知度

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が44.1%と最も高く、次いで、「公共的施設のバリアフリー化指導」が35.6%となった。

(3) 「ユニバーサルデザイン」の認知度

「ユニバーサルデザイン」という言葉を、「以前から知っていて意味も理解していた」が23.5%、「以前から知っていて意味も何となく理解していた」が41.6%となり、認知度は65.1%となった。令和4年度と比較すると、0.6ポイント減少した。

(4) まちの中の「ハード」（公共的施設、道路など）のバリア（障壁）

「よく感じる」又は「たまに感じることもある」と回答した方の割合は79.8%となり、そのうち、歩道（狭い、でこぼこ）にバリアを感じる方が多く、歩道のでこぼこについては、73.7%の方がバリアと感じている。

また、バリアを感じたことのある施設は、大規模商業施設、官公庁、鉄道駅、観光施設で多かった。

(5) 公共的施設の「ソフト」の対応への不便さや不満

「よく感じる（聞く）」又は「たまに感じる（聞いた）ことがある」と回答した方の割合が 38.3%となり、令和4年度と比較して 3.1 ポイント減少した。

具体的には、「施設のバリアフリーに関する情報不足」、「表示類がみづらい」、「通路等に障害物がある」の順に多かった。

(6) ヘルプマークの認知度

「以前から知っていて、マークの意味も理解していた」又は「以前から知っていて、マークの意味も何となくではあるが理解していた」と回答した方の割合は 63.8%となり、令和4年度と比較して 5.8 ポイント増加した。

(7) 困っている様子を見かけた場合の手助け

「手助けをする」又は「可能な限り手助けをする」と回答した割合は 75.9%となった。

「手助けをしたいと思うが、行動に移せない（かもしれない）」又は「手助けをしたとは思わない」と回答した方の割合は 20.8%で、その理由としては、「手助けをしたくても方法が分からないから」が 51.4%、「かえって相手の迷惑になるといやだから」が 45.9%となった。

(8) 車椅子駐車区画

「車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）」と回答した割合は 8.7%となり、6.1 ポイント減少したものの、「車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者とそのほかの方も利用」と合わせると 45.6%の方が歩行困難者以外の利用があるとしている。

車椅子駐車区画が不足していると思う施設は、病院又は診療所が最も多く、39.2%となった。次いで、大規模商業施設、官公庁が多かった。

(9) ひとにやさしいまちづくり推進の施策

ひとにやさしいまちづくりの推進施策として特に重要だと思うこととしては、「まちづくり構想の推進」が 39.9%と最も多かった。

令和4年度と比較して、「整備基準の充実化」が 6.7%増加するなど、ハード面の関心が高かった。